

情報化施工とC-I-M講習会

使いこなす業界に

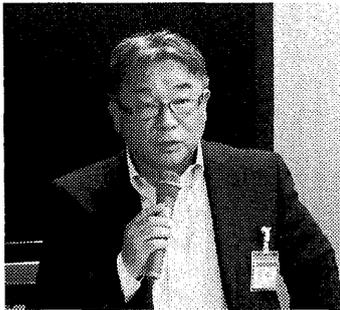
大阪府測量協ら

大阪府測量設計業協会、日本測量協会関西支部、土木学会土木情報学委員会ICT施工研究小委員会は21日、講習会「情報化施工とC-I-Mの現状と展望」を大塚商会大塚梅田ビル（大阪市福島区）で開いた。

冒頭、大阪府測量設計業協会の北川育夫会長は「建設を取り巻く状況を見ると、ICT（情報通信技術）を活用し、生産性を高め、魅力ある産業に変わる必要がある。デジタルデバイス（情報格差）が問題になる中、ICTを使いこなす業界になることが望まれている。講習会の内容をしっかりと聞き、われわれがふるい落とされないようにしよう」とあいさつした。

講習会では、最初に近畿地方整備局の加藤義紀企画部長、機械工管理官が「情報化施工

推進戦略について」を講演した。加藤管理官は「個人的には平成遷都1300年記念事業の関連で、情報化施工を初めて経験した。建機のオペレーターが『何もすることがなく非常に楽』と言っていたこ



あいさつする北川会長

とが強く印象に残っている」と振り返った。近畿地方整備局では「発注者指定として57工事で77の情報化施工技術を使っているが、施工者からの提案で採用したものを加えると、約100現場で約140技術を使用している」と説明した。

続いて、土木学会土木情報学委員会ICT施工研究小委員会の森博昭副委員長（中央復建コンサルタンツ）が「C-I-Mの実現に向けた取り組み」を説明した。森副委員長は「従来から走行シミュレーションはあったが、従来

はそのためだけにデータを作っていたのに対して、現在は詳細設計でつくった3次元データを使って走行シミュレーションを作れるのが大きな違い」と紹介した。最後に「C-I-Mなどを通じて、若い人も魅力のある仕事のやり方に変わってきている」と締めくくった。

最後に、福井コンピュータ関西営業所の村田真悟氏が「情報化施工の実務について」施工管理データ交換標準Ver4対応TIS出来形管理、座標データ連携による効率化提案」を講演した。

建設通信新聞

【建設ICT】		
1. 日経	2. 朝日	3. 毎日
4. 読売	5. 朝日	6. 中日
7. 産経	8. 静岡	9. 伊勢
10. 中部経済	11. 建通	12. 日刊工業
13. 建設通信	14. 信濃毎日	15. 日本海
16. 建設工業		